

琉球大学学術リポジトリ

歌三線の学習から音楽教育へ ― 「伝統音楽演習」
受講生対象のアンケート調査を基に―

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部音楽科 公開日: 2011-07-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小川, 由美, Ogawa, Yumi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20904

歌三線の学習から音楽教育へ

－「伝統音楽演習」受講生対象のアンケート調査を基に－

From study of Uta Sanshin to music education

-Based on interviews with students who have completed 'traditional music practice' -

小川由美
Yumi Ogawa

1. 研究の目的

昨今、学校音楽教育における伝統音楽の位置づけは、益々重要となってきた。中でも郷土の芸能や音楽の教材化が、近年活発に行われている¹⁾。平成23年度より小学校で全面実施となる新学習指導要領においても伝統音楽は重要視されている。音楽科における今回の改訂の基本方針は、平成20年1月の中央教育審議会の答申を基にしている。答申には、「国際社会に生きる日本人としての自覚の育成が求められる中、我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を基盤として、我が国の音楽文化に愛着をもつとともに他国の音楽文化を尊重する態度等を養う観点から、学校や学年の段階に応じ、我が国や郷土の伝統音楽の指導が一層充実して行われるようにする。」²⁾ という項目が挙げられている。そしてこの基本方針の下に具体的事項が設定されている。例えば小学校音楽科では、「唱歌や民謡、郷土に伝わるうたについて、さらに取り上げられるようにするとともに、歌唱共通教材の扱いについて充実を図る。鑑賞教材の選択の観点については、現行で高学年で位置付けられている我が国の音楽について中学年でも取り扱うなどの改善を図る。」³⁾ といったことである。

日本には各地に様々な郷土の芸能・音楽が存在する。その中でも特に沖縄には、沖縄特有の芸能や音楽が数多く存在し、且つそれらは非常に生活に密着している。地域に根付く芸能や音楽を学習するという事は、学校教育にそれぞれの地域性が生かされるということでもある。しかしその扱い方には地域の特性を十分に考慮しなければならない。本研究では、教員養成の場における沖縄の伝統音楽学習の現状を分析することで、沖縄の伝統音楽が持つ教育的意義と課題を考察していく。そしてそこから、沖縄の学校教育での伝統音楽の扱い方についての示唆を得たいと考える。

2. 研究の方法

伝統音楽学習に関する過去の意識調査から、伝統音楽学習に携わる現場の教師や教員養成の学生の抱える課題を導く。そして沖縄における「伝統音楽演習」を受講、もしくは過去に受講したことある学生を対象にアンケート調査を行い、各質問項目の傾向について考察していく。

そこから沖縄の学校教育における伝統音楽の扱い方について考察していくこととする。

(1) 過去の意識調査

① 教員養成における伝統音楽学習

これまでに教員養成の視点から伝統音楽について調査した事例をあたった。2007年に坂本が教員養成課程2回生（調査対象大学は関西圏に位置する）を対象に行った日本伝統音楽に対する意識調査⁴⁾では、「日本伝統音楽に対する興味・関心が低く、画一的な印象を持っている学生が多い」結果となった。そして「日本伝統音楽を学校教育で教える必要性に疑問をもつ学生や教えることに不安を訴える学生が半数以上いた。」としている。調査対象となった大学の「教員養成課程では箏や三絃の演習授業や日本伝統音楽に関する講義が多く行われて」いたが、学生自身の日本伝統音楽に対する苦手意識が意識調査には如実に表れていることがわかる。

② 沖縄の伝統音楽学習

沖縄の伝統音楽については、沖縄の郷土音楽学習について2003年に津田が音楽担当教諭を対象に行なったアンケート調査⁵⁾がある。これは1993年に大山が中学校音楽担当教諭を対象に行なったアンケート調査⁶⁾の一部と比較検討したもので、1993年と2003年の調査結果を比較することで、沖縄県の郷土音楽学習の10年間の変化をまとめている。その結果10年間の変化として、(1) 沖縄の音楽や芸能の学校教育への導入率の向上、(2) 総合的な学習などの導入形態の拡大、(3) 学習の主となる楽器のリコーダーから三線への変化、(4) 教材曲の増加やジャンルの多様化、(5) 学校外の人材活用の促進を挙げている。同時に2003年時における郷土音楽学習の課題として、「教師の沖縄音楽に関する知識や技術不足、教材・教具（楽器設備）の不備」を挙げており、課題には沖縄の伝統音楽学習に対する現場の教師の不安が表れている。また小学校での伝統音楽学習の位置づけが「音楽集会や学芸会などの行事とリンクさせ、いわば投げ入れ的」に扱われることも多いとして、伝統音楽学習のカリキュラム上の位置づけについても多くの課題があることを指摘している。

以上の2つの意識調査から、現場の教師も、これから教師を目指す学生にも、伝統音楽を教えることに対する不安感があることがわかる。その要因の一つとしては、伝統音楽に関する知識や技術の蓄積の少なさが挙げられるのではないだろうか。そこで現状における伝統音楽学習の課題を把握する為に、教員養成校で開講されている「伝統音楽演習」を受講している、もしくは受講したことがある学生を対象に、伝統音楽に対する意識調査を行うこととする。

(2) アンケート調査

調査にあたり、琉球大学山内昌也講師の協力を得て、山内氏が担当する「伝統音楽演習」の受講生(過去に受講した経験のある者を含む)を対象に無記名での回答方式でアンケートを行った。アンケート実施日は2010年12月17日と2010年12月22日である。

琉球大学で開講されている「伝統音楽演習」で教えられているのは「歌三線」である。歌三線とは、「琉球王府の音楽として完成した声楽曲」であり、「その曲は常に弾き歌いで演奏され、弦声一如などと言われる。」また、「楽譜は独特の文字譜で、工工四（くんくんしー）と称され、現在では全曲目が刊行されていて、だれでも入手することができる。」ものとされている⁷⁾。歌三線は琉球王朝時代から続く沖縄独自の音楽であるので、演習を受講している学生が沖縄県出身者であるかどうかで、この音楽を耳にする機会の多少が大きく変わってくると思われる。そこでアンケート回答者の属性に沖縄県の出身者であるかどうかの項目を設定した。また教員を目指す学生であるかどうかを知る為、大学での所属も属性項目に設定している。

もちろん沖縄県の出身者といっても歌三線の演奏経験が十分にあるとは限らない。また歌三線以外の楽器や歌の演奏経験の度合いによっても、歌三線への意識に差が生じるかもしれない。そこで歌三線に対する音楽経験に加え、歌三線以外の音楽経験に対しても調査をすることとした。その他に沖縄の伝統音楽に対するイメージが歌三線を演奏することで変化したか、伝統音楽と教育に関してどう意識しているかについても調査する。

伝統音楽に対する意識調査の内容は、主に以下の4点に分類することができる。

- ① これまでの音楽経験
- ② 歌三線の技術習得に対する意識
- ③ 沖縄の伝統音楽に対するイメージの変化
- ④ 伝統音楽と教育との関わりに対する意識

アンケートと同時に山内氏自身にもインタビューを行い、「伝統音楽演習」における演習内容や教授法、受講している学生の実態についての質問を行った。

3. 内容

(1) アンケート調査対象者の属性

「伝統音楽演習」を受講している、もしくは受講したことがある学生11名を対象にアンケートを行った。11名中男性2名女性9名であり、男性は2名とも沖縄県外出身者、女性は9名中2名が沖縄県外の出身者であった。またいずれも教育学部に所属しているが、学科・専修別に見ると、学校教育教員養成課程の音楽教育専修が5名、生涯教育課程の心理臨床科学／教育カウンセリングコースが4名、保健体育専修が1名（無回答1名）であった。年次別では、4年次が4名、3年次が6名、2年次が1名である。

(2) 調査結果（資料1参照）

① これまでの音楽経験

少なくとも数回は三線に触れたことがある者も含めて三線演奏経験者が8名、全く触れたことのない三線演奏未経験者が3名である。11名中9名はピアノを始めとする様々な洋楽器の経験者であった。「三線以外の楽器経験」について、三味線や箏といった邦楽器や沖縄の三線以外

の楽器を経験楽器として記述した者はいなかった。

また大学以前に、演奏しないまでも三線に触れる機会があったかについては、「ある」と答えた沖縄出身者6名中4名が、触れた場所として「家」を挙げているのに対し、県外出身者で触れた機会が「ある」と答えた2名はいずれも「家」を挙げていないことから、沖縄では三線が身近な楽器であると推察される。その他にも、県外出身者が「ちゅらさんとかで見て、いいなあ一心がほっこりする感じを抱いていました。」(3年次女性、県外出身)と回答しているのに対し、沖縄出身者からは「伝統音楽ではなく、そこらへんから流れている音楽っていう感じです。BGMの様で、おちつけるというイメージ」(3年次女性、沖縄出身)、「結構身近にある音楽」(3年次女性、沖縄出身)という回答があり、生活の中に沖縄の伝統音楽が根付いていることが伺える。

② 歌三線の技術習得に対する意識

歌三線は前述のように声楽曲であり、三線ではなく歌がメインとなる。その為、「三線がメインだと思っていたら歌のほうが大変だった。」(4年次女性、県外出身)といった回答もあった。この回答者は県外出身であったが、沖縄出身の回答者からも、歌三線習得に関して難しいと思う点について「弾きながら歌うこと、楽譜の読み方、正確な音程で弾くこと」(3年次女性、沖縄出身)、「工工四を覚えるまでは楽譜を読むのが難しい。母音の伸ばしを楽しむような歌と三線をあわすのが難しい。」(3年次女性、沖縄出身)といった回答があり、三線を弾きながら歌うことに対する難しさを感じていることがわかる。

反対に歌三線習得に関して易しいと思う点については、「五線の楽譜が読めない人でも工工四ですぐ演奏できる場所」(4年次女性、沖縄出身)、「タブ譜の様な数字で書かれた楽譜はあまり困らずすぐ弾ける。」(3年次女性、沖縄出身)といった回答があり、歌三線に用いる工工四という楽譜の活用が三線演奏の一助となっていることがわかる。

但し、沖縄出身者が全員歌三線の技術習得に関する「難しい点」「易しい点」の両方について記述しているのに対し、県外出身者は「三弦だけ！手軽に始められます。」(3年次女性、県外出身)と答えた1名以外は「易しい点」についての記述がみられなかった。県外出身者の「難しい点」については、「歌の音はなだらかに変わるものもあるので難しい」(3年次男性、県外出身)、「かぎやで風節のゆったりとしていて、長い曲、歌の音程が緩々と変わっているのが難しい。唐船ドーイ等の一風変わった節、三線と歌で混乱する。」(2年次男性、県外出身)、「三線がメインだと思っていたら歌のほうが大変だった。」(4年次女性、県外出身)、「古典は弾くにも歌うにも難しいと思います。あと、音域が広くて難しいです。」(3年次女性、県外出身)といったように、総じて歌うことに難しさを感じていることがわかる。

③ 沖縄の伝統音楽に対するイメージの変化

「伝統音楽演習」を受講することで、沖縄の伝統音楽に対するイメージが変化したかについては、「変化した」と回答した者が7名、「変化しなかった」と回答した者が3名(無記名1名)

であった。イメージの変化の内容としては、受講以前は「ゆっくりしていて退屈なイメージと逆にはやくて難しいイメージ」といった後ろ向きな捉え方だったものが、「意外に簡単（指が覚えやすく）楽しかった。」という前向きな捉え方に変化しているものが多い。ほとんどの受講生が歌三線を演奏する経験をしたことで、伝統音楽に対するイメージが好転している。さらに受講前は「西洋音楽と比べて何だかあやふや（適当）ルールなどが無いと思っていた。」が、受講後には「意外と細かなきまりごとや、微妙な音の変化などがあり、おもしろい。」と思うようになったという記述からは、伝統音楽への価値づけについても歌三線を知ることで向上していることがわかる。「変化しなかった」と答えた3名の内、2名が県外出身者であり、県外よりも沖縄出身の学生の方に、沖縄の伝統音楽に対しての意識の変容が見られた。（表1参照）

表1 「伝統音楽演習」受講生による沖縄伝統音楽に対するイメージの変化

回答者属性	受講以前の沖縄伝統音楽へのイメージ	受講後の沖縄伝統音楽のイメージの変化
3年次男性、 県外	かたい感じ。眠い感じ。	かぎやで風節のように難しくてちょっと眠くなるものもあるけど、ほとんど楽しい曲ばかり（テンヨー節、谷前茶節 etc.）
4年次女性、 沖縄	かぎやで風とかゆったりとした古典音楽は眠くなるイメージ	歌詞の意味や、踊り子さんの“じかた”をして歌三線の奥深さがなんとなく分かり、更に勉強したいと思うようになった。
3年次女性、 沖縄	民謡は親しみがあり、ノリの良い音楽であるというイメージ。古典はとてもゆっくりでなじめない感じがしていました。（古典は厳かなイメージです。）	古典に対して親しみを持つようになりました。節のとり方がわかってくると面白くなりました。
4年次女性、 沖縄	ゆっくりしていて退屈なイメージと逆にはやくて難しいイメージ	意外に簡単（指が覚えやすく）楽しかった。
3年次女性、 沖縄	西洋音楽と比べて何だかあやふや（適当）ルールなどが無いと思っていた。	意外と細かなきまりごとや、微妙な音の変化などがあり、おもしろい。
4年次女性、 沖縄	祭り、祝い事で演奏されるもの。眠くなる。自分も弾けるようになりたい（沖縄出身なので）	いろんな曲をひくことで、より三線が身近に感じられるようになった。三線にも技があることを知って、興味が増した。
3年次女性、 沖縄	伝統音楽ではなく、そこらへんから流れている音楽っていう感じです。BGMの様で、おちつけるというイメージ	より音楽という角ばった堅いもののような感じです。

④ 伝統音楽と教育との関わりに対する意識

教育を受ける立場で「小学校や中学校、高等学校で歌三線の授業があったら受けてみたいか？」を聞いたところ、11名全員が「はい」と答えた。

また教育をする立場から「もし自分が歌三線の授業を担当する事になったら、どのような授業ができると思いますか？」という質問を行い、8名から回答を得た。その内、「皆が知っている三線の曲から入り、興味をひきつけ、だんだん古典音楽の奥深さを知ってもらおう。」といったような、伝統音楽導入から発展という手順を想定したものが5名であった。その他に「三線に

慣れ親しんできた頃に、沖縄の郷土文化であるエイサーを紹介し、地謡（じかた）とエイサーの両方を子どもたちに体験させて、沖縄文化、沖縄音楽の良さを知ってもらうような授業。「歌詞の意味を調べたり、どんな時に歌われていたのか等を調べたりしてみたい。」といったように、沖縄の文化と絡めた学習を想定したものもあった。

(3) 山内氏のインタビューより

山内氏が歌三線の演習において大事にしていることは、「弾ける実感」を持たせることである。歌三線では工工四が用いられるが、工工四はポジション譜である。その為、学生の演奏の助けとなるような、さらに情報量が豊かな楽譜の必要性についても言及している。

本来古典音楽は「教授者（師匠）から学習者（弟子）へ、口頭性によって伝えられてきた音楽芸術である。この特性は今もなお残っており、歌三線の習い始めは教授者の芸を真似ることから始まる。」⁸⁾とされている。しかし大学での演習は、師匠と弟子の一対一の形態ではなく、一対多の形態となる為、このような口頭性の教授法には限界がある。そこで楽譜を活用することで基礎的な部分を一齐に教授し、細かなニュアンスについては学生の実態に合わせて教授していくという方法を取っている。また五線譜に慣れている学生は、工工四のような縦譜の感覚に慣れていない場合があるので、旋律の動きなどを横線で示し、フレージングを視覚化するという手立てを講じている。

山内氏によれば、伝統音楽には西洋音楽には無い音が存在するという。例えば、「尺」の音はシとシ♭の間の音であり、それは調性音階に慣れた者には今までに聞いたことのない音程感覚をもたらす。西洋音楽の音楽概念だけにとらわれず、色々な音が存在することを知り、それを子どもたちにも伝えていって欲しいというのが、山内氏の思いである。

4. 考察

アンケート調査の結果から、伝統音楽を実際に演奏し知っていくことで親しみが増すことがわかった。これは学生の感じる伝統音楽との距離感が縮まっていることを表しており、将来教員を目指す学生の意識の変容は、伝統教育の活発化の一助となることが予想される。また実際の演奏経験による親しみの向上は、学校教育においても演習形態の実践を行うことの意義を示唆していると考えられる。しかし三線を弾きながら歌うことの技術的な難点や、クラス形態での指導といった教授法について、学校教育の実態に合った方法を考える必要がある。

郷土の伝統音楽に親しみを持つことは、音楽の背景にある文化にも興味を持つことにつながる。郷土の文化を知ることは自分と地域とのつながりを知ることにもなる。それは伝統音楽学習の大きな教育的意義を示唆するものである。

今後は、現場の教員の意識調査も行い、現在の学校音楽教育における伝統音楽学習の課題を明らかにするとともに、沖縄の伝統音楽を学校カリキュラムにどのように位置づけていくか、また具体的な授業構想をどう構築していくかを考える必要がある。

引用・参考文献

- 1) 日本学校音楽教育実践学会紀要『学校音楽教育研究』第1巻～第14巻に掲載されている地域（郷土）の芸能・音楽の教材化に関する論文は、第1巻（1997）～第7巻（2003）では5件であったが、第8巻（2004）～第14巻（2010）年では19件にのぼっており、増加傾向にあることがわかる。
- 2) 文部科学省（2008）「小学校学習指導要領解説 音楽編」教育芸術社，p.3
- 3) 同上書2），p.4
- 4) 坂本暁美（2008）「教員養成課程における日本伝統音楽の指導法の研究—自文化の発信力に着目して—」，日本学校音楽教育実践学会編『学校音楽教育研究』第12巻，pp.151-152
- 5) 津田正之（2004）「沖縄県の小・中学校における郷土音楽学習—音楽担当教諭へのアンケート調査を手がかりに—」，日本学校音楽教育実践学会編『学校音楽教育研究』第8巻，pp.63-64
- 6) 大山伸子（1994）「沖縄県の中学校における郷土音楽導入の現状と方向性」，『沖縄県立芸術大学紀要』第2号，pp.45-74
- 7) 横道萬里雄（1990）「沖縄の歌三線のハヤシ」，法政大学国文学会『日本文学誌要』第42号，p.30
- 8) 小宮礼子（2008）「琉球古典音楽の伝承法の研究—琉球古典音楽野村流・比嘉康春の教授法を題材として—」琉球大学大学院修士論文，p.3

2010年12月17日、22日実施

資料1 「伝統音楽演習」アンケート結果（一部抜粋）

	回答者について		大学以前に三線に触れる経験						歌三線習得への難易度				
	属性	楽器既習経験	大学以前の三線演奏経験	○	×	小	中高	家	行事	学校	他	難しい点	易しい点
1	3年次男性、県外	クラリネット、バス クラリネット	○	×	○							歌の音はなだらかに変わるものもあるので難しい	
2	2年次男性、県外	ピアノ、コントラバス	○	○								かざやで風節のゆったりとしていて、長い曲、歌の音程が緩々と変わっているのが難しい。唐船ドレイ等の一風変わった節、三線と歌で混乱する。	
3	4年次女性、沖縄	ピアノ	○	○								フレットがない為ピッチを合わせるのが難しい。	五線の楽譜が読めない人でも工工四ですぐ演奏できるところ
4	3年次女性、沖縄	ピアノ、チューバ、エレキベース、ギターを少々	○	○				○				工工四だけだと歌いまわしがりづらいです。	三線が歌と同じ旋律を弾いているので歌いやすい。民謡は短いフレーズで分かりやすく覚えやすいと思う。
5	4年次女性、沖縄	ピアノ、ギター、トランペット	○	○				○				歌と三線の音程が違うと難しい。	運指が覚えやすい。
6	4年次女性、県外	ピアノ	○	○					○			三線がメインだと思っていたら歌のところが大変だった。	
7	3年次女性、沖縄	ピアノ	○	○				○				古典の歌の音程、リズム（かざやで風節など）	民謡のうたいやすいメロディー
8	4年次女性、沖縄	なし	○	○					○			速弾きの曲で、歌を歌いながら弾くこと。方言が読めない（時もある）。	音の種類が少ないのでとりかかりやすい。
9	3年次女性、県外	ピアノ、チェロ、トランペット、トロンボーン、リコーダー	○	○							旅行	古典は弾くにも歌うにも難しいと思います。あと、音域が広くて難しいです。	三弦だけ！手軽に始められます。
10	3年次女性、沖縄		○	○				○				工工四を覚えるまでは楽譜を読むのが難しい。母音の伸ばしを楽しむような歌と三線をあわせるのが難しい。	タブ譜の様な数字で書かれた楽譜はあまり困らずに弾ける。
11	3年次女性、沖縄	ピアノ	○	○						○		弾きながら歌うこと、楽譜の読み方、正確な音程で弾くこと	リズムがそこまで複雑でないこと

小中高での三線の授業を希望するか		その他 (自由記述)
○	×	
○	教師としての授業構想	
○	クラシックのようにきつくしげに、楽しい曲からどんどんやっけて、手とか弾き歌いをやってみたい。	前期から受講していて、最初の講義からいきなり、簡単な曲も弾けて楽しかったです。弾き歌いもとても楽しいと思っていたけれど簡単に親しみやすい曲からやると思っていたよりずんわりできて楽しかったです。1時間半の講義で十数曲できて、共通教育の三線より少人数なので意欲がでる。
○	歌詞の意味を調べたり、どんな時に歌われていたのか等を調べたりしてみたい。	やっぱり独特だなと感じています。どうしてこういう風な節、曲調になったのか等の他県の伝統音楽を比較しつつ地域の特色や歴史等も含めて調べてみたい。
○	皆が知っている三線の曲から入り、興味をひきつけ、だんだん古典音楽の奥深さを知ってもらおう。	沖繩に住んでるとはいえ、家に三線がない限り、三線に触れることができないので、この様な授業があることで三線についてもっと学びたいと思います。また、初心者ばかりだったので、ゆっくり技術を習得することができた。
○	三線に慣れ親しんできた頃に、沖繩の郷土文化であるエイサーを紹介し、地謡(じかた)とエイサーの両方を子どもたちに体験させて、沖繩文化、沖繩音楽の良さを知ってもらおう。	
○	運指を覚えてもらい、慣れ親しみのあるような曲を中心に練習、指導したい。	今まで、琉球古典音楽に興味がなかったが、CMや特別番組で流れていても聞こう！という気になった。
○		
○	有名な沖繩民謡(ていんさぐぬ花など)の弾き歌い。また、踊りに合わせて演奏する(地謡)などしてみたい。	沖繩の文化である歌三線について、この授業を受けるまでほとんど知らなかったことがショックでした。ウチナーンチュとして、(三線伝来の歴史なども含めて)知るべき!!!と思うので、ぜひ小中学校の授業でもっと伝統音楽を取り入れたいと思います。
○		音合わせがまだできないので、できるようにしたい。自分でそれができるようになってから、どこでも演奏できると思うので、県外にでると、何か沖繩のことやっていると言われることもあるので、そのためにも沖繩らしい歌や踊りができるのは良いと思います。今回の授業は、いつもの調子で弾き続けるのではなく速弾きや下から弾くのとかな新しいのが学べて楽しいです。
○		三線、とっても楽しいです♪
○	工工四をいきなり読むのは大変なので、数字の楽譜を用いた楽譜から入り、三線の作りなども学習できる授業にしたいです。最近では、ポップスでも三線が使われているので、ポップスに三線を挿入できる所までやりたいです。	
○	最低限の奏法の指導と比較的簡単な曲を演奏する活動を通して沖繩の曲と楽器に親しむ授業ができるのではないかと思います。	先生がやさしくゆっくり指導して下さったので初心者私たちでも歌三線に意欲的に取り組めたお思います。色々な曲をやったので毎回充実していました。